

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 泉州地域の方々に本校があつて良かったと心から言ってもらえるような「地域の星」となる人材を輩出していく。「地域の星」とは学力のみならず、人間力（公共心、道徳心）、コミュニケーション力、活動力がバランスの取れた人材のことをいう。
- 設立当初に制定された校訓「真摯、闊達、友愛」と、東日本大震災を機に定められた久米田三則「挨拶、礼節、親切」を目標とし、人間性溢れる人材を育てていく。
- 「地域の星となる人材」とは、教員、医療関係従事者（看護師、臨床検査技師等）、公務員（役所、警察官、消防士等）、弁護士、会計士、地元産業等、泉州地域に親しみ明日の泉州を担う人材のことである。
1. 公立高校として、知・徳・体のバランスを大切にし、将来、地域の核となる人材を育成する。
  2. 経済的・家庭的に様々な生徒に対応できる公立高校組織を自覚する。
  3. 「共生推進教室」が設置されている意義を大切にす。
  4. 地域の核となる高校として、外部から評価される実績を挙げていく。

### 2 中期的目標

- ※ 「量的拡大から質的充実へ」
- 平成 22 年から平成 25 年にかけては、様々な課題に対して具体的数値目標を示し、量的拡大をめざし実現してきた。(1) 「(教員) 学校運営、教育環境の整備等校長のリーダーシップが発揮されている。」(H21:76%→H25:95%)、(2) 「(教員) 生徒による授業評価を行い、授業改善に活かしている。」(H21:32%→H25:83%)、(3) 「(教員) 職員会議を始めとする各学年・各分掌・各委員会の会議で、情報交換や課題検討が行われ、その結果が学校運営に活かされている。」(H21:37%→H25:63%)、(4) 「(生徒) 授業がわかりやすく、楽しく、進路実現や日常生活に役立っている。」(H21:45%→H25:69%)、(5) 「(生徒) 教え方に様々な工夫をしている先生が多い」(H21:42%→H25:76%)。今後は、質的充実をめざす。
1. 学力の育成と授業力の伸長を発展させる。－生徒授業評価から教員相互による授業力向上支援へと発展させる－
    - (1) 生徒の変化に応じた授業を構築する。
    - (2) 学校教育自己診断によると、生徒の第一希望は、「生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整してくれる授業」であるが、保護者の第一希望は、「生徒の進路希望を実現できるよう学力が高まる授業」である。生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業をめざす。
      - ※ 学校教育自己診断による「授業がわかりやすく、楽しく役立っている」を平成 28 年度には 75%以上 (H24 度 56%、H25 度 69%)
      - ※ 学校教育自己診断による「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」を平成 28 年度には 70%以上 (H24 度 62%、H26 度 82%)
    - (3) 教員相互の努力により授業力を伸長させる。
  2. 安全で安心な学校づくりを発展させる。－生徒自らが規律の大切さを理解し、社会的規範を大切にする生徒を育てる－
    - (1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。
    - (2) 在籍定員 960 名に対して、常時、950 名以上の在籍者がるように努力する。(H24 末在籍者 953 人、共生推進コース 9 人)
      - ※ 平成 26 年度末には、950 名以上の在籍者
    - (3) 年間特別指導件数を 10 件未満とする。(H25 年末特別指導件数 12 件)
      - ※ 平成 26 年度末には、特別指導件数を 10 件未満になるように努力する。
    - (4) 平成 22 年度より実施している組織的登校指導を継続する。
    - (5) 時間を守る規律指導を徹底し、生徒一人当たりの年間遅刻件数 4 件以内を目標とする。(H25 年末 遅刻件数平均 4.3 件)
      - ※ 平成 26 年度末には、生徒一人当たりの遅刻件数を 4 件以内となるようにする。遅刻の原因を究明し、原因にそつた対策を実施する。
  3. 目的意識を明確に持った進路指導ができるようにする。－自ら考え、自らの意志で将来を考える生徒を育てる－
    - (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。
      - ※ 平成 26 年度には、各学年 1 単位となった「総合的な学習の時間」がカリキュラムに基づきスムーズに運用できるようにする。
      - 平成 25 年度から導入した「生徒用スケジュール手帳（夢設計）」を積極的に活用する。
    - (2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。
    - (3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
    - (4) 「共生推進教室」の生徒については、全員の就職をめざす。(H24 度：全員就職、H25 度：全員就職)
    - (5) 平成 28 年度には、国公立大学・難関私立大学 15 人以上、中堅私立大学 50 人以上をめざす。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「学力の育成と授業力の伸長」を課題として取り組んできた。「授業がわかりやすく、楽しい」は年々増え 70%となっている。「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は若い教員を中心に ICT 活用の結果、77%である。「分かりやすい授業」を望む生徒が 43%と一番多いが、「人間性や社会性を養ってくれる授業」や「進路実現のための授業」を望む生徒が、相当数（それぞれ 28%、27%）いる。教員、保護者は「進路実現のための授業」を望んでいるのに対して生徒の要望は多岐にわたっており、更に授業を工夫しなければならない。学習時間が極めて少ない生徒が約 30%に減少（昨年度は 40%）しているが、継続的な取り組みが必要である。</p> <p>・「安全で安心な学校づくり」では、82%の生徒が「学校に行くのが楽しい」、80%の生徒が「行事が楽しい」と回答しているのは、学校全体での創意工夫の結果と言える。「学校の施設・設備はほぼ満足できる」は 65%、「気軽に相談できる先生がいる」が 64%と目標を達成しているが、継続的に取り組み改善していく必要がある。</p> <p>・「授業内容を他教科と話し合う」や「授業見学や授業方法の意見交換」の評価が低いが、校内研修等で教科を越えて校内問題を共通理解するように努めている。公開授業や研究発表にも取り組み、更なる改善をめざしていく。</p>	<p>第 1 回 (H26.6.13)</p> <p>○平成 25 年度 学校経営報告について ①組織間の情報共有、教員のネットワークを大切に。②入学当初における学習に対する姿勢の形成が重要 ③NP0、合宿、ガイダンス、キャンパスツアーなど意欲的な取組みがなされている。④特別指導については件数を減らすことよりも、ここの事案に対する丁寧な処理が大切。</p> <p>○平成 26 年度 学校経営計画について ①進路結果、進路指導については数値だけでなく内面的な充実と生徒のベクトルに合わせた指導を。②コース（文理など）選択前に「自分を知り、世の中を知る、視野を広げさせる。」総学の取組み、スケジュール手帳の活用などは評価できる。</p> <p>○高校生活支援カードの導入について ①形式的にならず、生徒自身の声を反映できるように、工夫改善を行い意味のある活用を。</p> <p>第 2 回 (H26.10.17)→○今年度の取組み及び現状報告が中心。○内容豊富なので次回精選して検討を。</p> <p>第 3 回 (H27.1.16)</p> <p>○平成 26 年度 学校評価基礎資料について ①遅刻が減り、クラブ加入率が上がるなどますます良い方向に向かっている。②進路状況も 3 年学年団を中心とした働きかけ（英語力の向上、公務員希望者への細かな指導）で成果を挙げている。○学校教育計画および自己評価について ①久米田高校の存在意義を考え様々な取組みがなされる中で「久米田でできる、久米田ならできる」ことが増え進路実現、入学希望者の増加につながっている。○現在の久米田の課題について ①教員集団の年齢構成のアンバランス（30～40 代の中堅層が極端に少ない）によりベテランからの授業技術など伝達や、また逆に ICT などの活用を得意とする若い世代との技術共有に課題があり。②新しい入試への移行（特に英語力、技能重視）にどのように対応していくのか。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成と授業力の伸長	(1) 生徒による授業満足度の増大  (2) 教員の授業力のさらなる伸張	【わかる授業、更に改善された授業】 (1) 7月の授業アンケートに基づき改善の方向性を出し、授業改善、12月の授業アンケートで是正状況を点検する。学校教育自己診断では、授業満足度の経年変化を見る。  (2) 生徒による授業評価については、年2回実施し授業力向上に寄与させる。これを発展させ、授業力向上のための教員相互の研鑽の機会を向上させる。	(1) 「授業がわかりやすく進路実現や日常生活に役立っている」70%以上となるようにする。  (2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」を65%以上となるようにする。	(1) 授業アンケート2回及び校長における授業見学2回実施。「授業がわかりやすく進路実現や日常生活に役立っている」は70%となり達成した。(○)  (2) 本校教員のICT活用教育への取組が評価され「学校経営推進費」と認定される。選択教室、会議室、生物室などにプロジェクター・書画カメラ等を設置する。「教え方に様々な…」については77%となり達成。(◎)
2 安全で安心な学校作り	(1) 皆が気持ちよく生活できる学校づくり  (2) クラブ入部率の増大  (3) 学校の施設・設備の改善と改修  (4) ライフサポート室の設置  (5) 高校生活支援カードの効果的運用	【充実した快適で楽しい学校生活】 (1) 特別指導件数10件未満を目標とし、皆が気持ちよく規律を守る学校作りを行う。教育相談等を通じて生徒・保護者の状況を的確に把握し、皆が進級・卒業できる学校作りを実施する。「遅刻指導」「ベル着指導」を合理的に合わせ、遅刻件数の低減を実現する。清掃と美化にも取り組み気持ちよく学校生活を送れるように努める。  (2) 新入生の入部について、「部活動勧誘冊子」に改善を加え、4月～5月の一学年の呼びかけで、入部者を拡大する。  (3) 温水シャワートイレは各階に整備完了。校舎を安全で美しく保つために、廊下、階段及びトイレの整備及び清掃方法を検討する。  (4) 学校いじめ防止基本方針に基づき、「ライフサポート室」を新たに設置し、適切な運用を図る  (5) 「家庭状況カルテ」の内容を組み込んだ「高校生活支援カード」を開始し、効果的な運用を図る。	(1) 気持ち良い学校づくり ア 960名定員中、950名以上の在籍を維持。 イ 特別指導件数10件未満 ウ 生徒一人当たり平均遅刻件数を4件未満となるよう努める。  (2) 4月当初に1年生体験入部を実施し、クラブ体験実施後の入部率60%以上をめざす。  (3) 廊下、階及びトイレの更なる整備及び、安全でより美しい校舎を実現する。「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」を60%以上めざす。  (4) 人権教育推進委員会と教育相談担当者会議を統合運用する「ライフサポート室」を機能的に運用することができたか。「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」を60%以上めざす。  (5) 「高校生活支援カード」を効果的に運用することができたか。	(1) 3月年度末で、特別指導案件は5件（昨年14件）と昨年比9件減。また、遅刻件数は2389件（昨年4171件）と昨年比1781件減で、生徒一人当たり、約2.5件に納まっている。(◎)  (2) クラブ入部率は、年度末現在、1年生2年生の平均で69%（昨年は65%）と4%増加した。(○)  (3) トイレのペーパーホルダーの更新を推進中。各フロア毎に「姿見」を各1枚設置の方向で進捗中。「学校の施設・設備は…」は65%となり達成。(○)  (4) 「ライフサポート室」を設置して、教育相談と人権推進委員会を統括しながら進めてきた。「担任以外にも気軽に…」は64%となり達成。(○)  (5) 「高校生活支援カード」を本校方式に作成し、中退防止フォーラムで12月に発表し、他校から参考になるとの評価を頂いた。(○)
3 目的意識を明確に持った進路指導。	(1) H25の総合的な学習の時間の改訂に向けての準備  (2) 「共生推進教室」3期生の全員の就職実現  (3) 高い進路意識と確固たる将来像を持たせる。  (4) 進路結果	【自分の将来を見つけ、実現への道筋発見】 (1) H25に導入した「スケジュール手帳」は継続。1年秋の自分の将来を語る1分間スピーチ、1年冬のグループ毎の調べもの学習に続く、2年の学習内容を研究する。  (2) 「共生推進教室3期生（3年生）」の全員就職をめざす。  (3) NPO法人久米田フレンドシップによる進路説明会は継続。「学力生活実態調査」に引き続き「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用する。  (4) 進路結果が、生徒の目標を達成できるように努力する。	(1) 総学LHR志学委員会の研究結果H25より「スケジュール手帳」の継続使用。1年の発表大会を継続し、2年で総学の有意義な活用が行われたか。  (2) 「共生推進教室3期生の全員就職」の実現。  (3) H25年度公務員等の就職に効果を発揮したNPO主催の進路説明会を継続できたか。「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用することが出来たか。  (4) 国公立大学・難関私立大学で10人以上、中堅私立大学40人以上、看護専門学校10人以上、公務員等10人以上めざす。	(1) 「スケジュール手帳」は、使用方法を改善しながら進め3版目を作成中。1月29日に「調べもの学習」発表大会を実施した。地元のコスモスライオンズの方が審査員として参加し熱心な発表姿勢を誉めて頂いた。(○)  (2) 「共生推進教室3期生」については3名中3名が進路決定した。(○)  (3) NPO法人による進路説明会は「公務員編」「教員編」「病院編」で継続実施。公務員については、大阪府警5名、消防士2名、市役所4名合格と大きな成果が出た。浪人生も8名合格しているので、昨年と比べると倍増している。(◎)  (4) 進路については、国公立大学4名合格3名増、関西大学15名合格9名増、近畿大学79名で38名増、関西外大21名で16名増、警察官4名増、市役所2名増、消防士昨年と同じと成果を挙げている。(◎)